

- 構第3回大会 (2005, 8, 1)横浜
- 6) 永石貴之、野村和子、水口惣平、出嶋克史、川崎ナナ、松石 紫、野村一也：線虫の糖鎖付加タンパク質の決定。日本プロテオーム機構第3回大会 (2005, 8, 1)横浜
 - 7) 野村和子、水口惣平、永石貴之、安藤恵子、三谷昌平、平林義雄、松石 紫、川崎ナナ、野村一也：*C. elegans* を用いた糖鎖の網羅的機能解析—二次元電気泳動(2D-DIGE)による定量解析。日本プロテオーム機構第3回大会 (2005, 8, 1)横浜
 - 8) Kazuko Nomura, Sohei Mizuguchi, Katsuki Dejima, Takayuki Nagaishi, Yukari Matsuishi, Nana Kawasaki, Keiko Ando, Syohei Mitani, Yoshio Hirabayashi, Kazuya Nomura: Analyzing glycome-related gene expression with two dimensional in-gel electrophoresis (2D-DIGE). XVIII International Symposium on Glycoconjugates (2005, 9, 4-9) Firenze, Italy
 - 9) 福原 潔、石井明子、川崎ナナ、川西 徹、宮田直樹、奥田晴宏：脂溶性平面型カテキンの抗酸化作用とがん細胞増殖阻害効果。第64回日本癌学会学術総会 (2005, 9, 14-16)札幌
 - 10) Satsuki ITOH, Nana KAWASAKI, Noritaka HASHII, Akira HARAZONO, Yukari MATSUIISHI, Akiko HACHISUKA, Reiko TESHIMA, Jun-ichi SAWADA, Toru KAWANISHI, Takao HAYAKAWA: Glycosylation analysis of IgLON family glycoprotein in rat brain by LC/MSn. 第77回日本生化学会大会 (2005, 10, 19) 神戸
 - 11) Noritaka HASHII, Nana KAWASAKI, Akira HARAZONO, Satsuki ITOH, Yukari MATSUIISHI, and Toru KAWANISHI: Decrease in alpha-glucosidase II expression in the kidney of a MRL/lps murine model of human systemic lupus erythematosus (SLE). 第77回日本生化学会大会 (2005, 10, 19) 神戸
 - 12) Risa INOUE, Motoki TERADA, Kay-Hooi Khoo, Nana KAWASAKI, Bruce Y. MA, Shogo OKA, Toshisuke KAWASAKI, Nobuko KAWASAKI: Isolation of glycoproteins carrying the characteristic MBP-ligands oligosaccharide from the human colon cancer cells. 第77回日本生化学会大会 (2005, 10, 19) 神戸
 - 13) Miho ASAHI, Kotone SANO, Noritaka HASHII, Satsuki ITOH, Nana KAWASAKI, Maiko YANAGIBASHI, Haruhi UCHIBORI-IWAKI, Haruko OGAWA: Characterization of glycan moieties of fibronectin and vitronectin during liver regeneration. 第77回日本生化学会大会 (2005, 10, 19) 神戸
 - 14) 佐野琴音、内堀一岩城はるひ、浅沼公恵、川崎ナナ、伊藤さつき、鈴木理沙、玉井幸恵、加藤恵己、赤松 暢、小川温子：肝再生時ビトロネクチンの部位特異的糖鎖修飾ならびに糖鎖構造変化が多量体形成に与える影響。文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「糖鎖によるタンパク質と分子複合体の機能調節」第3回夏期シンポジウム (2005, 8) 浜松
 - 15) 福原 潔、中西郁夫、石井明子、川崎ナナ、川西 徹、浦野四郎、小澤俊彦、宮田直樹、伊古田暢夫、奥田晴宏：カテキンの立体構造固定による抗酸化効果の増強と生物作用。第20回生体機能関連化学シンポジウム (2005, 9, 17)名古屋
 - 16) 川崎ナナ、橋井則貴、伊藤さつき、原園 景、松石 紫、川西 徹：自己免疫疾患モデルマウス腎臓における糖鎖異常。第1回臨床プロテオーム研究会 (2005, 10, 15) 東京
 - 17) 澤田 均、澤 彩映子、伊藤さつき、川崎

- ナナ：マボヤ卵黄膜上の精子レセプター HrVC700 の糖鎖構造. 日本動物学会第 76 回大会 (2005, 10, 6-8)つくば
- 18) 永石貴之、野村和子、水口惣平、出島克史、安藤恵子、三谷昌平、平林義雄、松石紫、橋井則貴、川崎ナナ、野村一也： *C. elegans* の糖鎖付加タンパク質の決定. 第 28 回日本分子生物学会年会(2005, 12, 8)福岡
- 19) 水口惣平、野村和子、出島克史、永石貴之、三谷昌平、安藤恵子、川崎ナナ、松石紫、橋井則貴、瀬古 玲、山下克子、野村一也、泉川友美、北川裕之、菅原一幸、平林義雄、榎 娟大、成松 久、野村一也：遺伝子破壊による糖鎖機能の戦略的解明—線虫 *C. elegans* を用いた解析の中間報告. 第 28 回日本分子生物学会年会(2005, 12, 8)福岡
- 20) 川崎ナナ、伊藤さつき、橋井則貴、中島 紫、原園 景、川西 徹：LC/MS のグライコムクスへの応用. 文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「糖鎖によるタンパク質と分子複合体の機能調節」第 4 回公開シンポジウム (2006, 1, 31)名古屋
- 21) 川崎ナナ、伊藤さつき、松石 紫、原園 景、橋井則貴、川西 徹：グライコムクス技術を用いた疾患関連糖タンパク質解析. 日本薬学会第 126 年会 (2006, 3)
- 22) 原園 景、川崎ナナ、伊藤さつき、橋井則貴、松石 紫、川西 徹：LC/MS とエキソグリコシダーゼによる糖タンパク質の部位特異的な糖鎖解析. 日本薬学会第 126 年会 (2006, 3)
- 23) 橋井則貴、川崎ナナ、原園 景、伊藤さつき、松石 紫、川西 徹：LC/MSⁿを用いた糖鎖抗原が結合したコアタンパク質の同定法の開発. 日本薬学会第 126 年会 (2006, 3)
- 24) 川崎ナナ、伊藤さつき、原園 景、橋井則貴、松石 紫、川西 徹：LC/MSⁿを用いた部位特異的な糖鎖構造解析. 第 6 回日本蛋白質科学年会 (2006, 4)
- 25) Kotone Sano, Nana Kawasaki, Satsuki Itoh, Noritaka Hashii, Yasunori Miyamoto, Haruko Ogawa: Reduced glycosylation of vitronectin modulates the tissue lytic system and stellate-cell spreading during liver regeneration. International Symposium on Extracellular Glycomatrix in Health and Disease. (2006, 6, 15-17) Awajishima
- 26) Yanyang Zhao, Jianguo Gu, Xiangchun Wang, Tomoya Isaji, Eiji Miyoshi, Yoshinobu Kariya, Kaoru Miyazaki, Nana Kawasaki, Satsuki Itoh, Naoyuki Taniguchi: Deletion of core fucosylation on $\alpha 3\beta 1$ integrin down-regulates its functions. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (2006, 6, 19) Kyoto
- 27) Noritaka Hashii, Nana Kawasaki, Akira Harazono, Satsuki Itoh, Yukari Nakajima, Toru Kawanishi: Differential analysis of *N*-linked oligosaccharides in kidney of human systemic lupus erythematosus (SLE) model mouse by LC/MS. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (2006, 6, 19) Kyoto
- 28) Kotone Sano, Kimie Asanuma, Nana Kawasaki, Fumio Arisaka, Haruko Ogawa: How Glycosylation Activates Multifunctional Extracellular Matrix Glycoprotein, Vitronectin, during Liver Regeneration. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (2006, 6, 19) Kyoto
- 29) Satsuki Itoh, Nana Kawasaki, Noritaka Hashii, Akira Harazono, Yukari Nakajima, Akiko Hachisuka, Reiko Teshima, Jun-ichi Sawada,

- Takao Hayakawa, Toru Kawanishi:
Glycosylation analysis of IgLON family glycoproteins in rat brain by LC/MSⁿ (II). 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (2006, 6, 19) Kyoto
- 30) Yasuhiko Kizuka, Nobuaki Maeda, Nana Kawasaki, Toshisuke Kawasaki, Shogo Oka: A unique type of HNK-1 carbohydrate expressed on phosphacan is biosynthesized by GlcAT-P. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (2006, 6, 19) Kyoto
- 31) Makoto Baba, Bruce Y. Ma, Matsuishi Yukari, Nana Kawasaki, Makoto Hirano, Nobuko Kawasaki, Shogo Oka, Toshisuke Kawasaki: The lectin jacalin induces T lymphocyte activation through CD45 signaling. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (2006, 6, 19) Kyoto
- 32) Makoto Hirano, Yong B. Ma, Nana Kawasaki, Kazumichi Okimura, Nobuko Kawasaki, Shogo Oka, Toshisuke Kawasaki: Mannan-binding protein binding to metalloproteases mepri α and β results in the proteolytic activity inhibition and the complement activation. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (2006, 6, 19) Kyoto
- 33) Nobuko Kawasaki, Risa Inoue, Motoki Terada, Kay-Hooi Khoo, Nana Kawasaki, Bruce Y Ma, Toshisuke Kawasaki: Characteristic endogenous ligands for mannan-binding protein expressed on SW1116 human colon cancer cells. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (2006, 6, 19) Kyoto
- 34) 原園 景, 川崎ナナ, 伊藤さつき, 橋井則貴, 中島 紫, 山口照英, 早川堯夫, 川西徹: LC/MS を用いた血清糖タンパク質の部位特異的糖鎖解析. *Pharmaco-Hematology シンポジウム* (2006, 6, 30)東京
- 35) 原園 景, 川崎ナナ, 伊藤さつき, 橋井則貴, 中島 紫, 川西 徹, 山口照英: LC/MS/MS を用いたヒト血清グライコプロテオームの解析. 日本ヒトプロテオーム機構第4回大会 (2006, 7, 18-19) 東京
- 36) 佐野琴音, 川崎ナナ, 伊藤さつき, 橋井則貴, 安川然太, 佐藤ちひろ, 北島 健, 旭美穂, 宮本泰則, 小川温子: 肝再生におけるマトリックス分子ビトロネクチンの糖鎖変化の定量解析とその意義. 平成14~18年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「糖鎖によるタンパク質と分子複合体の機能調節」第4回夏期シンポジウム (2006, 8, 8-9) 浜松
- 37) 野村一也, 水口惣平, 野村和子, 出嶋克史, 永石貴之, 村田大輔, 安藤恵子, 三谷昌平, 瀬古 玲, 山下克子, 泉川友美, 北川裕之, 菅原一幸, 川崎ナナ, 松石 紫, 榎 娟大, 成松 久: 遺伝子破壊による線虫糖鎖関連遺伝子の機能解析. 第26回日本糖質学会年会 (2006, 8, 23-25)仙台
- 38) 旭 美穂, 佐野琴音, 橋井則貴, 伊藤さつき, 川崎ナナ, 柳橋麻衣子, 宮本泰則, 小川温子: 肝再生過程におけるラット血漿フィブロネクチンの糖鎖構造. 第26回日本糖質学会年会 (2006, 8, 23-25)仙台
- 39) 吉田奈央, 竹原弥生, 佐野琴音, 向山恵津子, 川崎ナナ, 伊藤さつき, 穂山 浩, 吉岡靖雄, 米谷民雄, 小川温子: スギヒラタケレクチンの精製とその糖特異性. 第26回日本糖質学会年会 (2006, 8, 23-25)仙台

- 40) 井上里抄, Kay-Hooi Khoo, 寺田基剛, 川崎ナナ, Ma Bruce Yong, 川寄敏祐, 川寄伸子: 血清マンナン結合タンパク質(MBP)に結合するヒト結腸ガン細胞上のリガンド糖タンパク質. 第26回日本糖質学会年会 (2006, 8, 23-25)仙台
- 41) 馬場亮人, Ma Bruce Yong, 松石 紫, 川崎ナナ, 平野 真, 川寄伸子, 川寄敏祐: レクチン jacalin による CD54 を介した T 細胞の活性化に関する研究. 第26回日本糖質学会年会 (2006, 8, 23-25)仙台
- 42) 川崎ナナ, 橋井則貴, 伊藤さつき, 原園 景, 中島 紫, 山口照英: 細胞治療/再生医療における糖鎖解析の重要性と糖鎖を利用した細胞特性解析への挑戦. 第4回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム(2006, 10, 23,24) 東京
- 43) 川崎ナナ, 高倉大輔, 中島 紫, 橋井則貴, 伊藤さつき, 原園 景, 山口照英: LC/MSⁿ を用いた糖鎖抗原付加タンパク質の同定. 日本プロテオーム機構第5回大会 (2007. 7. 30-31) 東京
- 44) 片桐洋子, 佐藤 伴, 川崎ナナ, 伊藤さつき, 鈴木佑典, 中島英規, 大喜多肇, 藤本純一郎, 清河信敬: ヒト B 前駆細胞株に発現する CD10 の糖鎖の多様性. 第27回日本糖質学会 (2007. 8. 1-3)福岡
- 45) 橋井則貴, 川崎ナナ, 伊藤さつき, 中島 紫, 原園 景, 山口照英: LC/MSⁿ による目的部分糖鎖構造を持つ糖タンパク質の特異的同定. 第27回日本糖質学会 (2007. 8. 1-3)福岡
- 46) 佐野 琴音, 旭美穂, 浅沼公恵, 伊藤さつき, 橋井則貴, 川崎ナナ, 安川然太, 佐藤ちひろ, 北島健, 小川温子: 組織再生に関わるマトリクス糖タンパク質の活性調節と修復過程における糖鎖変化. 第27回日本糖質学会 (2007. 8. 1-3)福岡
- 47) 楽 娜, 伊原友紀, 松下-及川浩子, 中村公亮, 川崎ナナ, 小川温子: ブタ膵臓 α -アミラーゼに対する十二指腸刷子縁膜糖タンパク質レセプターの探索. 第27回日本糖質学会 (2007. 8. 1-3)福岡
- 48) 野村和子, 林 康宏, 村田大輔, 永石貴之, 水口惣平, 出嶋克史, 福嶋宏史, 松石 紫, 川崎ナナ, 安藤恵子, 三谷昌平, 伊藤 信, 平林義雄, 野村一也: 線虫におけるセラミドグルコシル転移酵素の機能解明. 第27回日本糖質学会 (2007. 8. 1-3)福岡
- 49) 井上理抄, Kay-Hooi Khoo, 川崎ナナ, Bruce Youg MA, 川寄敏祐, 川寄伸子, : ヒト結腸ガン細胞上に発現するマンナン結合タンパク質 (MBP) の内在性糖鎖リガンド. 第27回日本糖質学会 (2007. 8. 1-3)福岡
- 50) 川崎ナナ, 伊藤さつき, 山口照英: 糖鎖と医薬品. 日本応用糖質科学会平成19年度大会(2007. 8. 30)平塚
- 51) 伊藤さつき, 川崎ナナ, 橋井則貴, 原園 景, 中島 紫, 高倉大輔, 内田恵理子, 押澤 正, 山口照英: ヒトミエロペルオキシダーゼの部位特異的糖鎖構造解析. 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会 (2007. 12, 11-15)横浜
- 52) 片桐洋子, 佐藤 伴, 川崎ナナ, 伊藤さつき, 鈴木佑典, 中島英規, 大喜多肇, 藤本純一郎, 清河信敬: ヒト B 前駆細胞株に発現する CD10 の糖鎖の多様性と endopeptidase 活性. 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会 (2007. 12, 11-15)横浜
- 53) 中村里香, 手島玲子, 佐藤里絵, 中島 紫, 川崎ナナ, 山口照英, 澤田純一, 名古屋博

- 之(養殖研):GM遺伝子組換えアマゴの安全性研究—アレルゲン性について. 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会(2007. 12, 11-15)横浜
- 54) 楽 娜, 伊原友紀, 松下-及川浩子, 中村公亮, 川崎ナナ, 白川 剛, 小川温子: 膵臓 α -アミラーゼに対する内在性レセプターの同定と糖鎖結合部位の予測. 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会(2007. 12, 11-15)横浜
- 55) Kotone Sano, Miho Asahi, Kimie Asanuma, Maiko Yanagibashi, Satsuki Itoh, Noritaka Hashii, Nana Kawasaki, Zenta Yasakawa, Chihiro Sata, Ken Kitajima, Haruko Ogawa: Mechanism of tissue remodeling regulation by the change in glycosylation and biological activity if extracellular matrix glycosylation. 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会(2007. 12, 11-15)横浜
- 56) 森田 一平, 角田 品子, 山本 修平, 鮫島健彦, 川崎 ナナ, 川寄 敏祐, 岡 昌吾: 樹状突起スパイン形成における HNK-1 糖鎖機能に関する研究 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会(2007. 12, 11-15)横浜
- 57) 小林 恭子, 木塚 康彦, 川崎 ナナ, 角田品子, 岡 昌吾: マウスの腎臓における非硫酸化型 HNK-1 糖鎖を発現する新規タンパク質の同定とその機能に関する研究 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会(2007. 12, 11-15)横浜
- 58) 水口 惣平, 野村 和子, 出嶋 克史, 泉川友美, 江草 徳幸, 谷口 史恭, 田村 純一, 中島 紫, 伊藤 さつき, 川崎 ナナ, 安藤 恵子, 三谷 昌平, 北川 裕之, 菅原 一幸, 野村 一也: モデル生物 *C. elegans* を用いたヘパラン硫酸とコンドロイチンプロテオグリカンの生体内機能解析 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会(2007. 12, 11-15)横浜
- 59) 村田 大輔, 野村 和子, 水口 惣平, 出嶋 克史, 安藤 恵子, 三谷 昌平, 福島 慶子, 山下 克子, 中島 紫, 伊藤 さつき, 川崎 ナナ, 野村 一也: 線虫 *C. elegans* における GPI アンカーの機能解析 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会(2007. 12, 11-15)横浜
- 60) 野村 和子, 林 康広, 村田 大輔, 永石 貴之, 水口 惣平, 出嶋 克史, 福島 宏史, 安藤 恵子, 三谷 昌平, 中島 紫, 川崎 ナナ, 伊東 信, 平林 義雄, 野村 一也: 線虫におけるセラミドグルコシル転移酵素の機能解明 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会(2007. 12, 11-15)横浜
- 61) 平野 真, Bruce Y. Ma, 川崎 ナナ, 川寄 伸子, 川寄 敏祐: Binding of MBP to Meprins Results in the Inhibition of the Proteolytic Activity of Meprins and the Initiation of the Complement Activation
- 62) 川寄 伸子, 井上 理抄, Kay-Hooi Khoo, 川崎 ナナ, Bruce Yong MA, 川寄 敏祐: ヒト結腸がん細胞より単離されたマンナン結合タンパク質リガンド糖タンパク質の性質 第30回日本分子生物学会年会第80回日本生化学会大会合同大会(2007. 12, 11-15)横浜
- 63) 橋井則貴, 川崎ナナ: シュードプロテオグリカンの検定と構造解析. 平成19年度厚生労働科学研究費補助金政策創薬総合研究推進事業研究成果発表会「糖鎖の機能解明と医療への応用」お茶の水女子大学糖鎖科学研究教育センターシンポジウム(2007. 11. 21)東京

- 64) 川崎ナナ:LC/MSⁿを用いた糖蛋白質の特性解析大阪大学蛋白質研究所セミナー「蛋白質翻訳後修飾」吹田市(2008. 1. 10,11)
- 65) 川崎ナナ:文部科学省特定領域研究「糖鎖によるタンパク質と分子複合体の機能解析」(Functional Glycomics)研究成果公開発表シンポジウム「第3の生命鎖:糖鎖の謎が今,解る」有楽町(2008. 1. 25, 26)
- 66) 川崎ナナ:LC/MSを用いた糖鎖の微量かつ網羅的解析と創薬への応用. 日本薬学会第128年会一般シンポジウム「グライコサイエンスから創薬へ」. 横浜(2008. 3. 26-28) 予定
- 67) 橋井則貴, 川崎ナナ, 原園 景, 伊藤さつき, 中島 柴, 高倉大輔, 山口照英:質量分析法を用いたグリコサミノグリカンの構造特性解析. 日本薬学会第128年会, 横浜(2008. 3. 26-28) 予定
- 68) 原園 景, 川崎ナナ, 伊藤さつき, 石川リカ, 高井俊紀, 古賀明子, 岡本寿美子, 山口秀人, 濱詰康樹, 佐藤貴之, 窪田雅之, 掛樋一晃, 木下充弘, 山口照英:ペプチド及びタンパク質医薬品の質量分析試験の標準化に関する研究. 日本薬学会第128年会, 横浜(2008. 3. 26-28) 予定
- 69) 伊藤さつき, 川崎ナナ, 橋井則貴, 山口照英:LC/MSを用いた抗体医薬品の特性解析, 日本薬学会第128年会, 横浜(2008. 3. 26-28) 予定
- 70) 平野 真, Bruce Y. Ma, 川崎ナナ, 川寄伸子, 川寄敏祐:マンナン結合タンパク質による meprin のプロテアーゼ活性調節. 日本薬学会第128年会, 横浜(2008. 3. 26-28) 予定

H. 知的財産権の出願・登録状況

H-1. 特許取得

特願:2007-322161

発明の名称:「同位体標識フェニルヒドラジンとLC/MSを用いた糖鎖比較定量法」

発明者:山口 照英, 川崎 ナナ, 橋井 則貴

H-2. 実用新案登録 なし

H-3. その他 該当事項なし

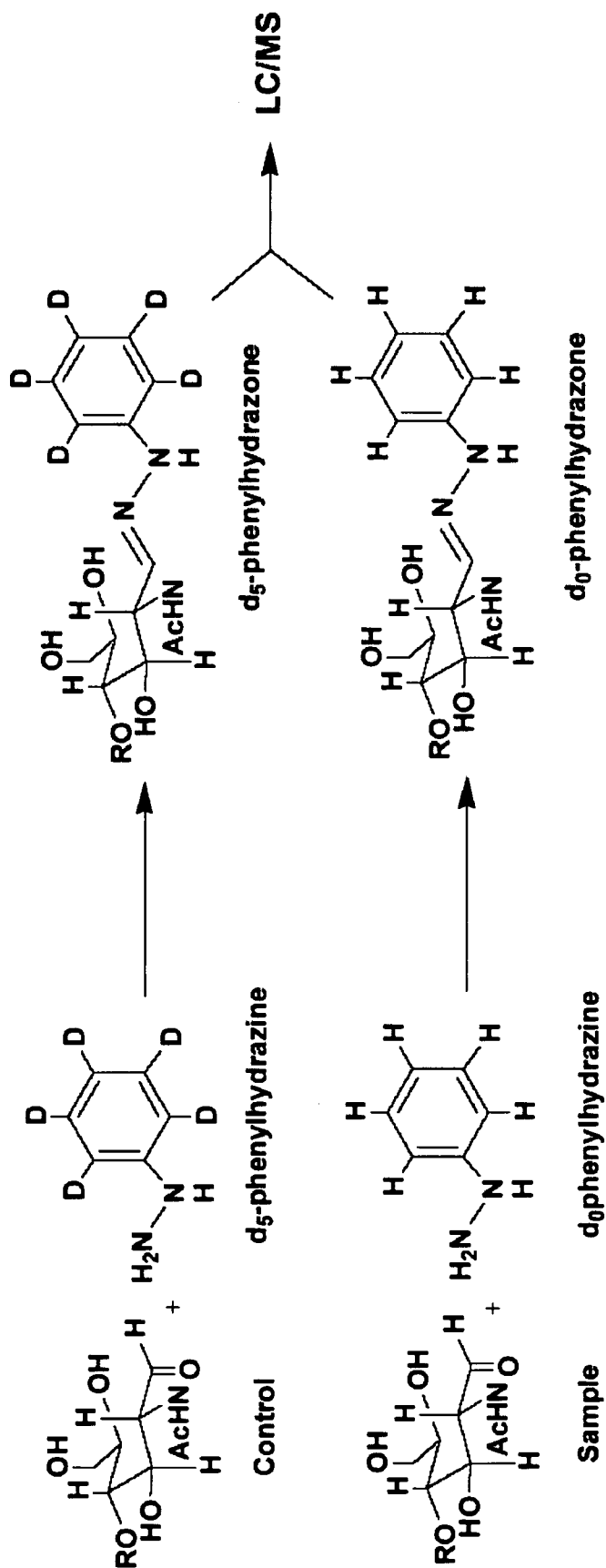


Fig.1 d₅重水素置換フェニルヒドラゾン糖鎖を内部標準とした定量的糖鎖プロファイリング法

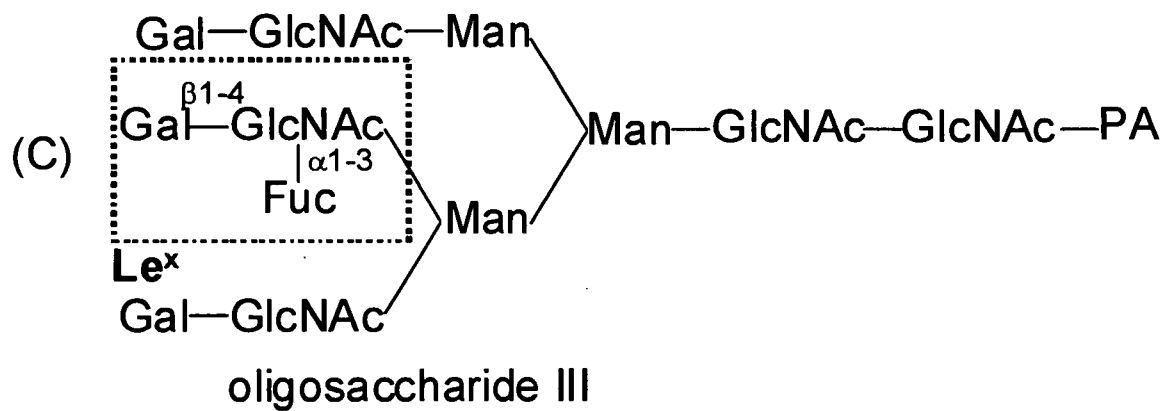
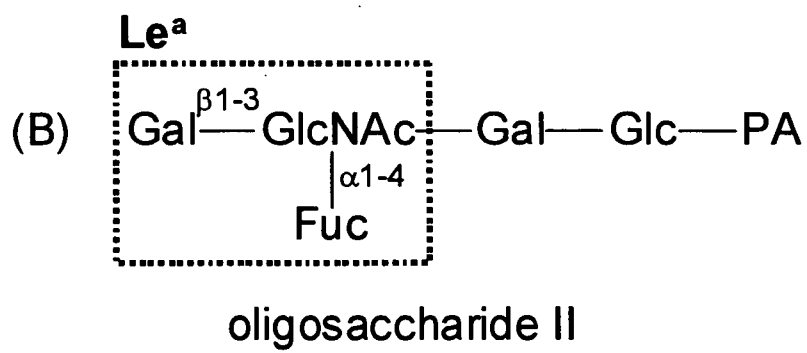
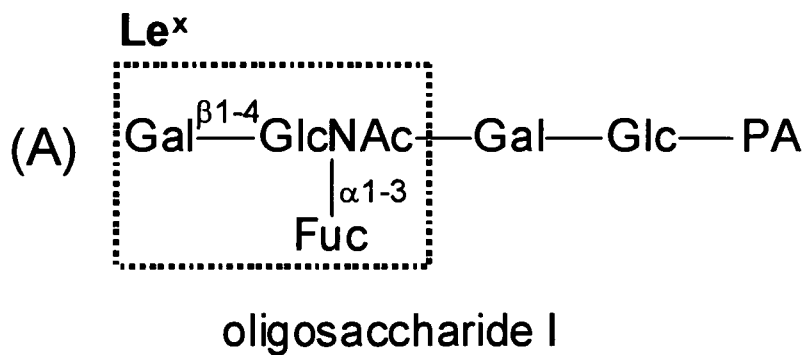


Fig. 3 Le^x 及び Le^a モデル糖鎖

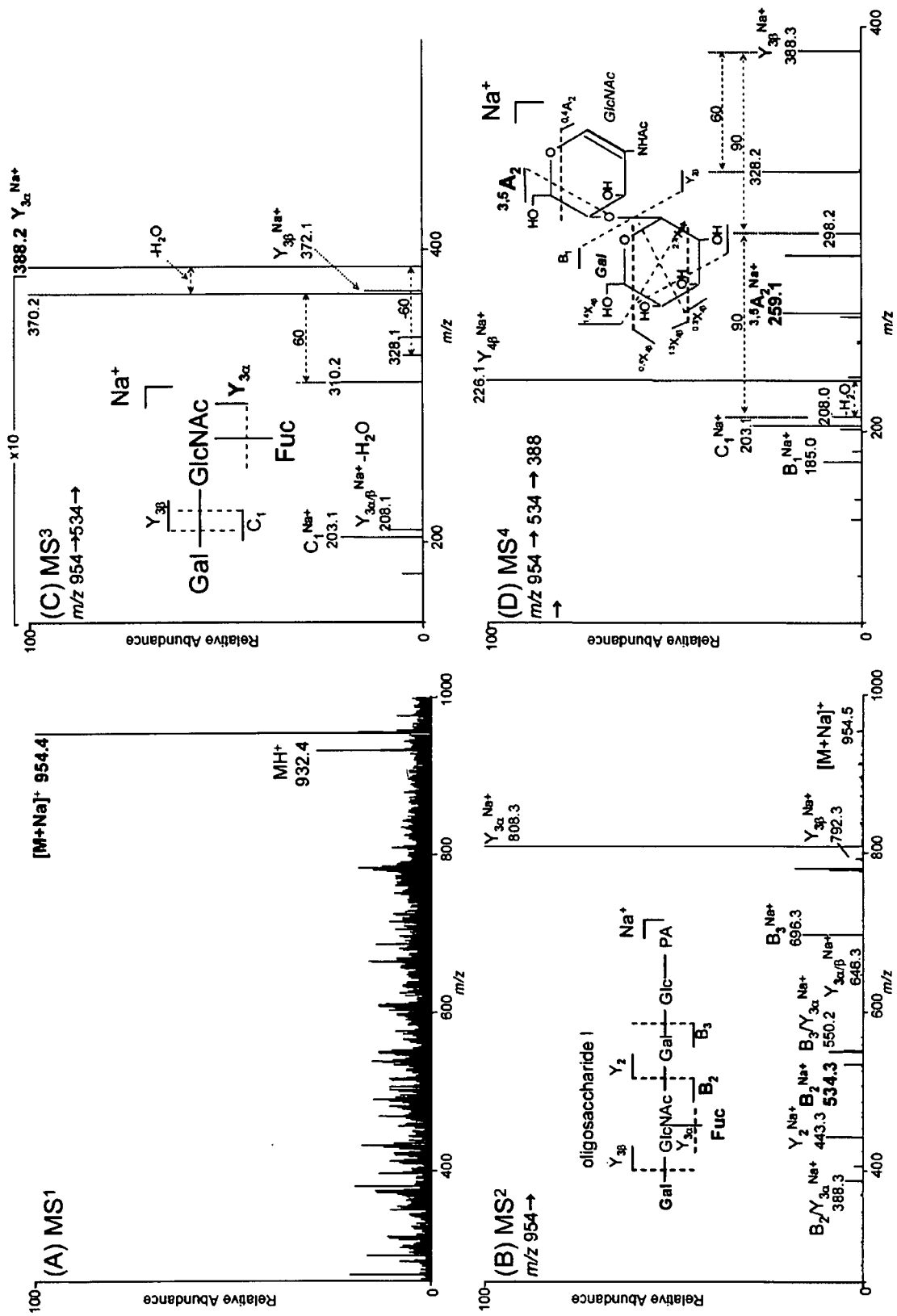


Fig. 4 Le^xモデル(糖鎖I)のMS¹⁻⁴スペクトル

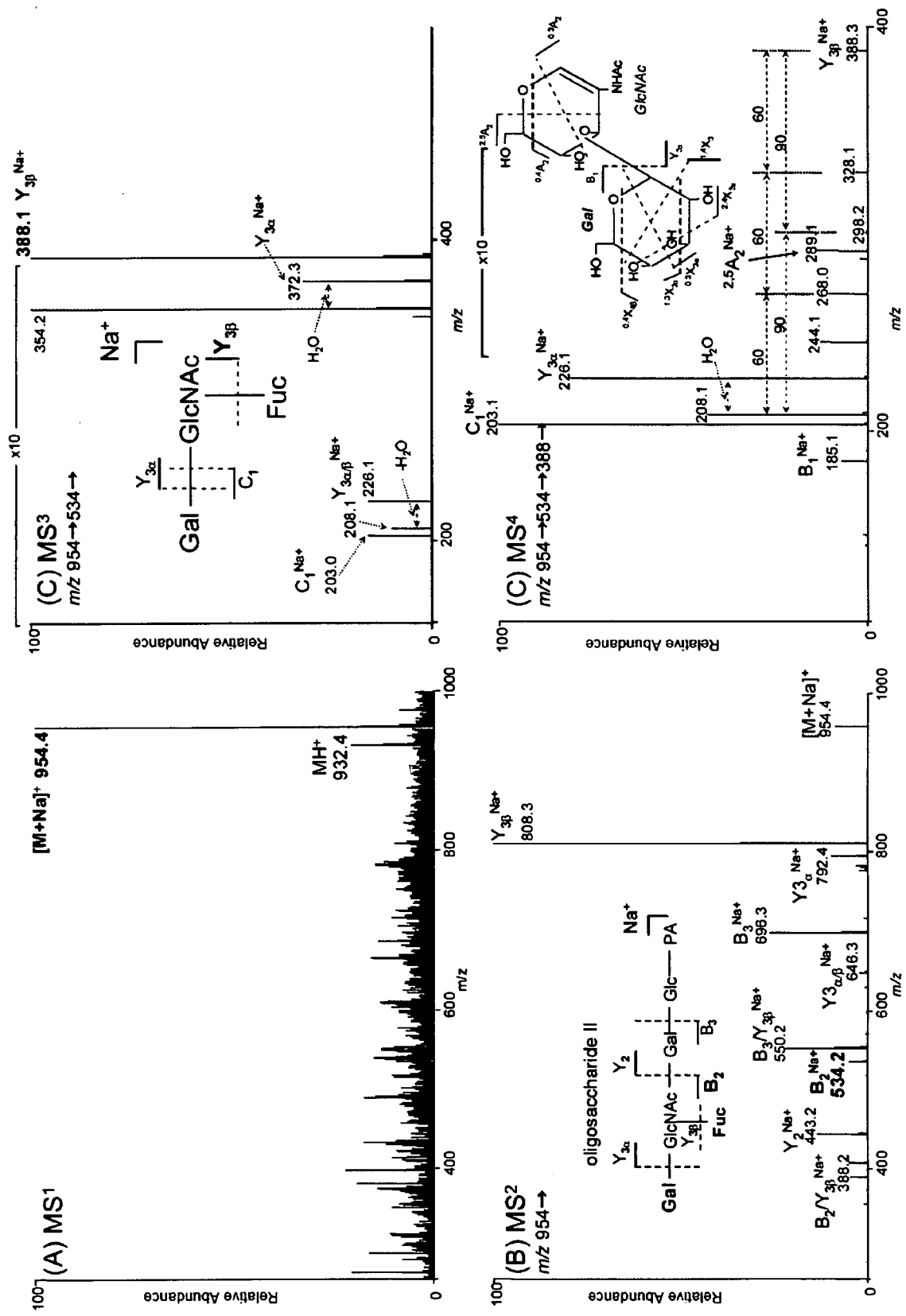


Fig. 5 Leaeモデル(糖鎖II)のMS¹⁻⁴スペクトル

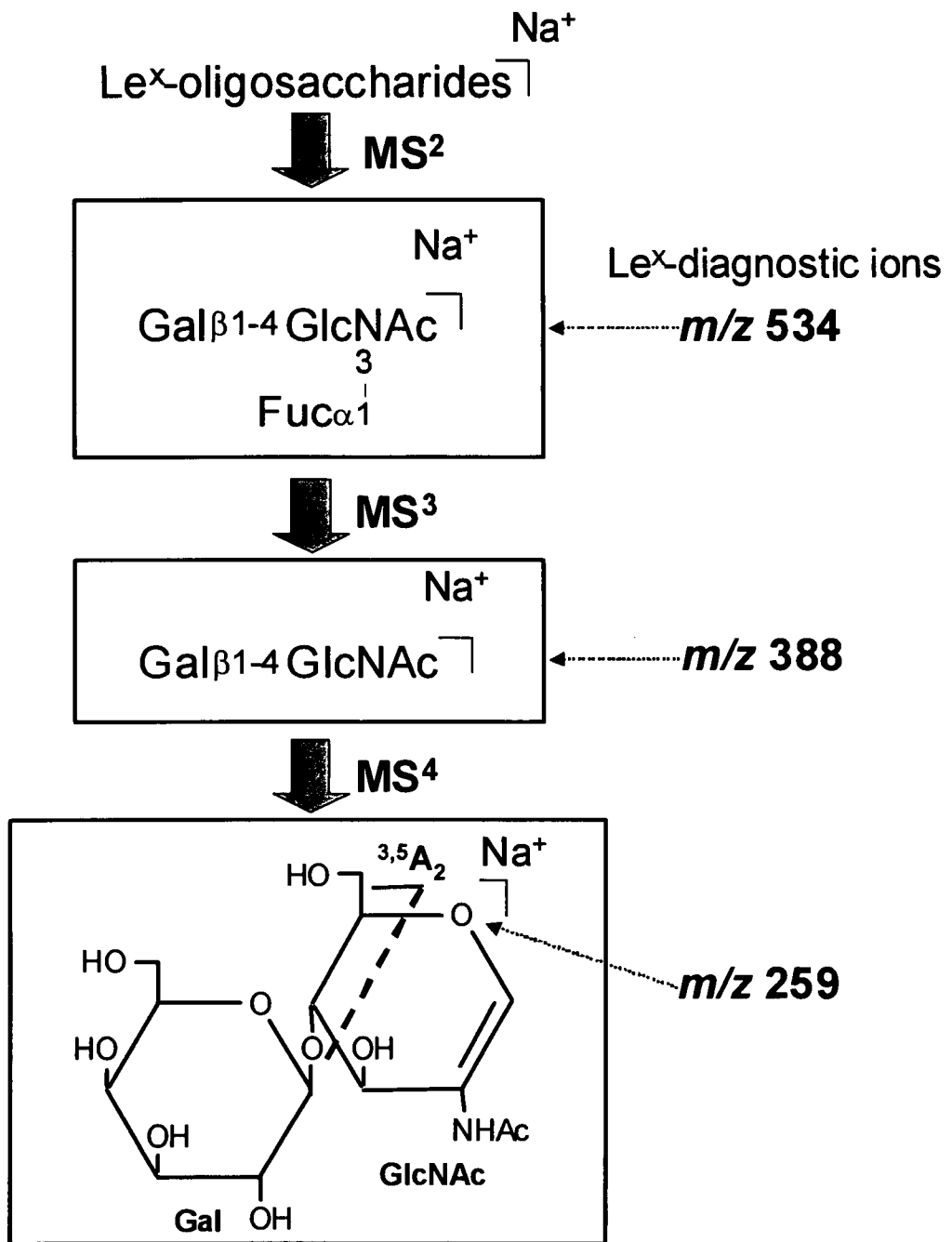


Fig. 6 Le^x 糖鎖の開裂と Le^x 診断イオン

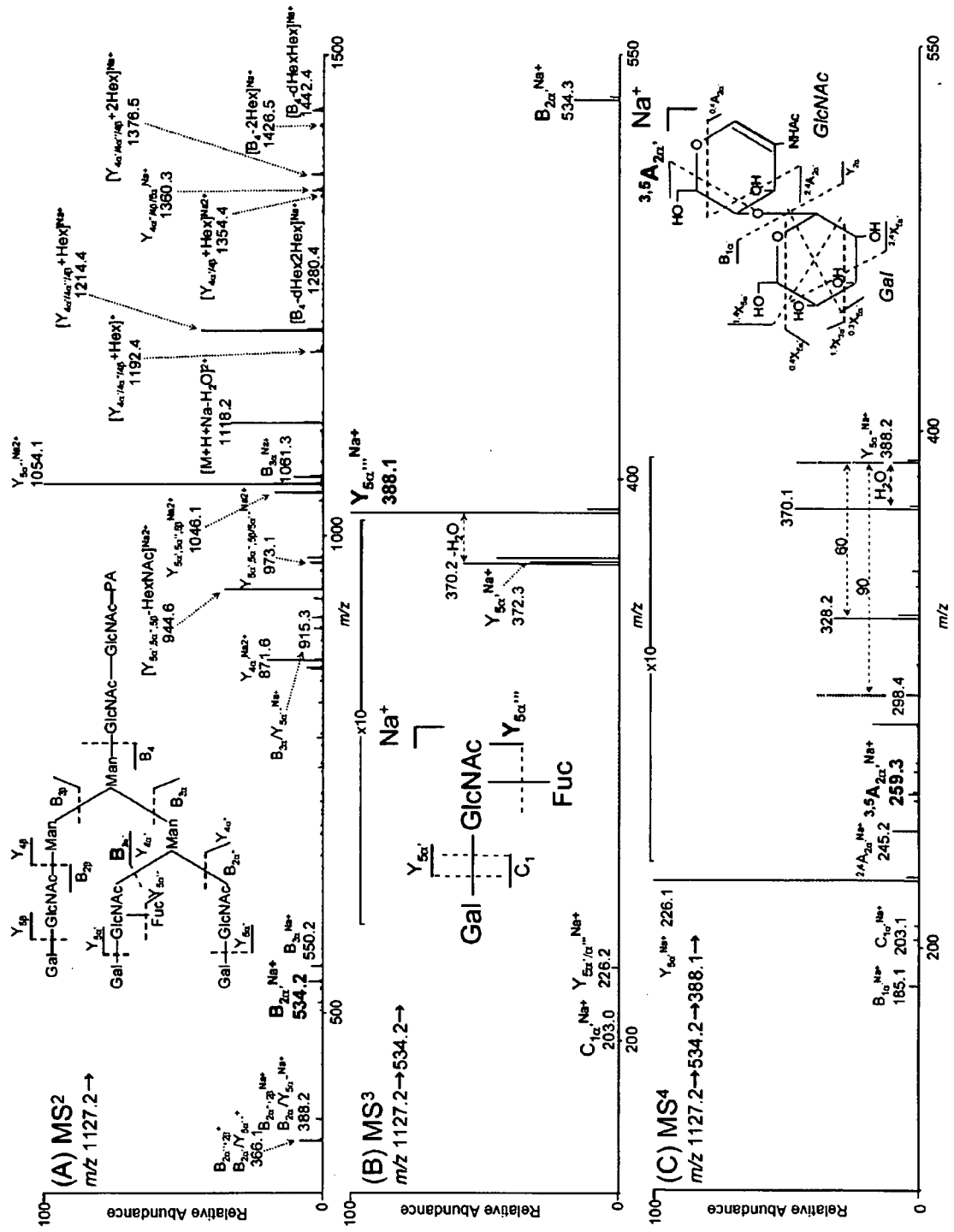


Fig. 7 LeXモデル(糖鎖III)のMS²⁻⁴スペクトル

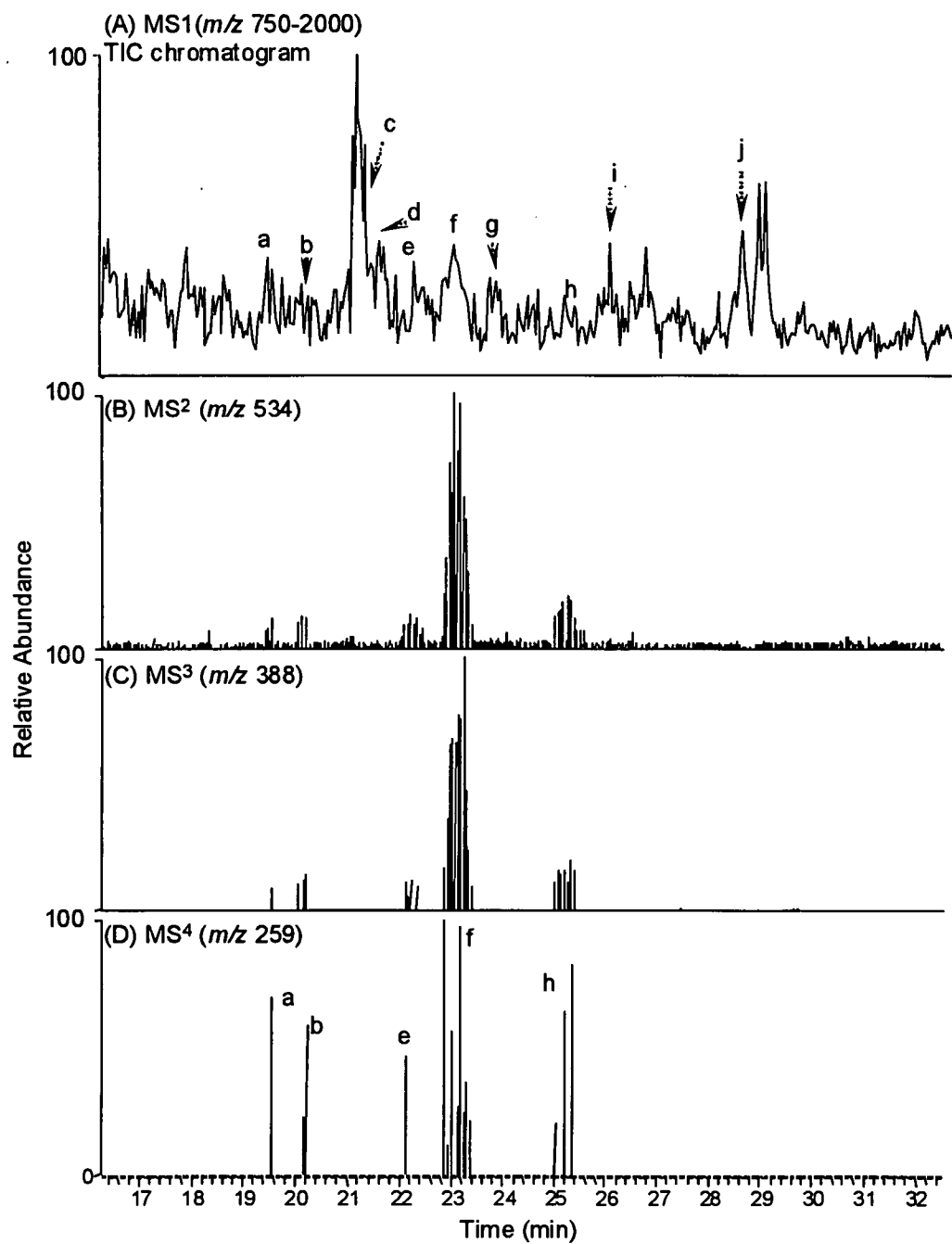


Fig. 8 マウス腎臓由来N結合型糖鎖のLC/MS¹⁻⁴

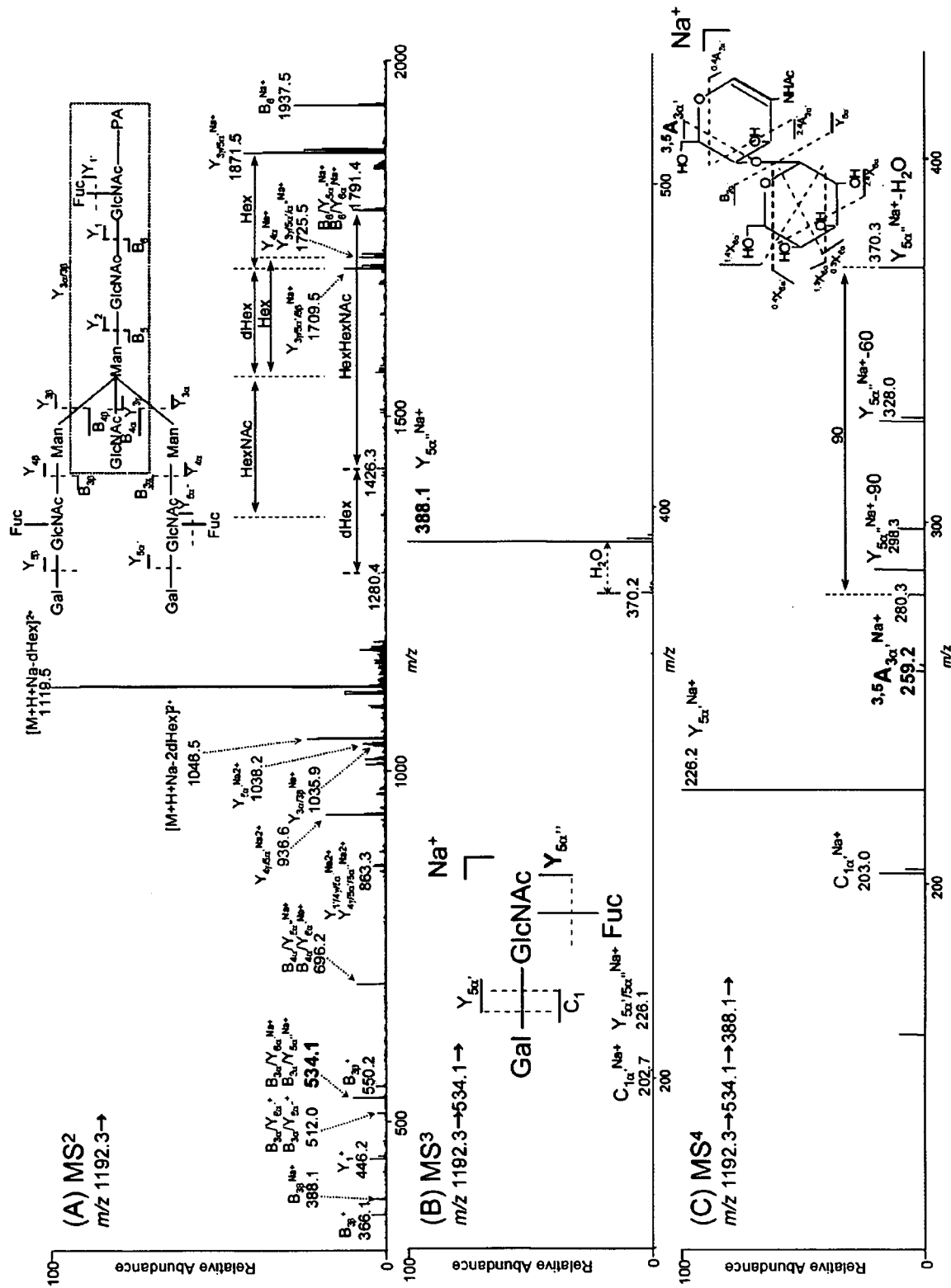


Fig. 9 マウス腎臓由来糖鎖 (ピークf)のMS²⁻⁴スペクトル

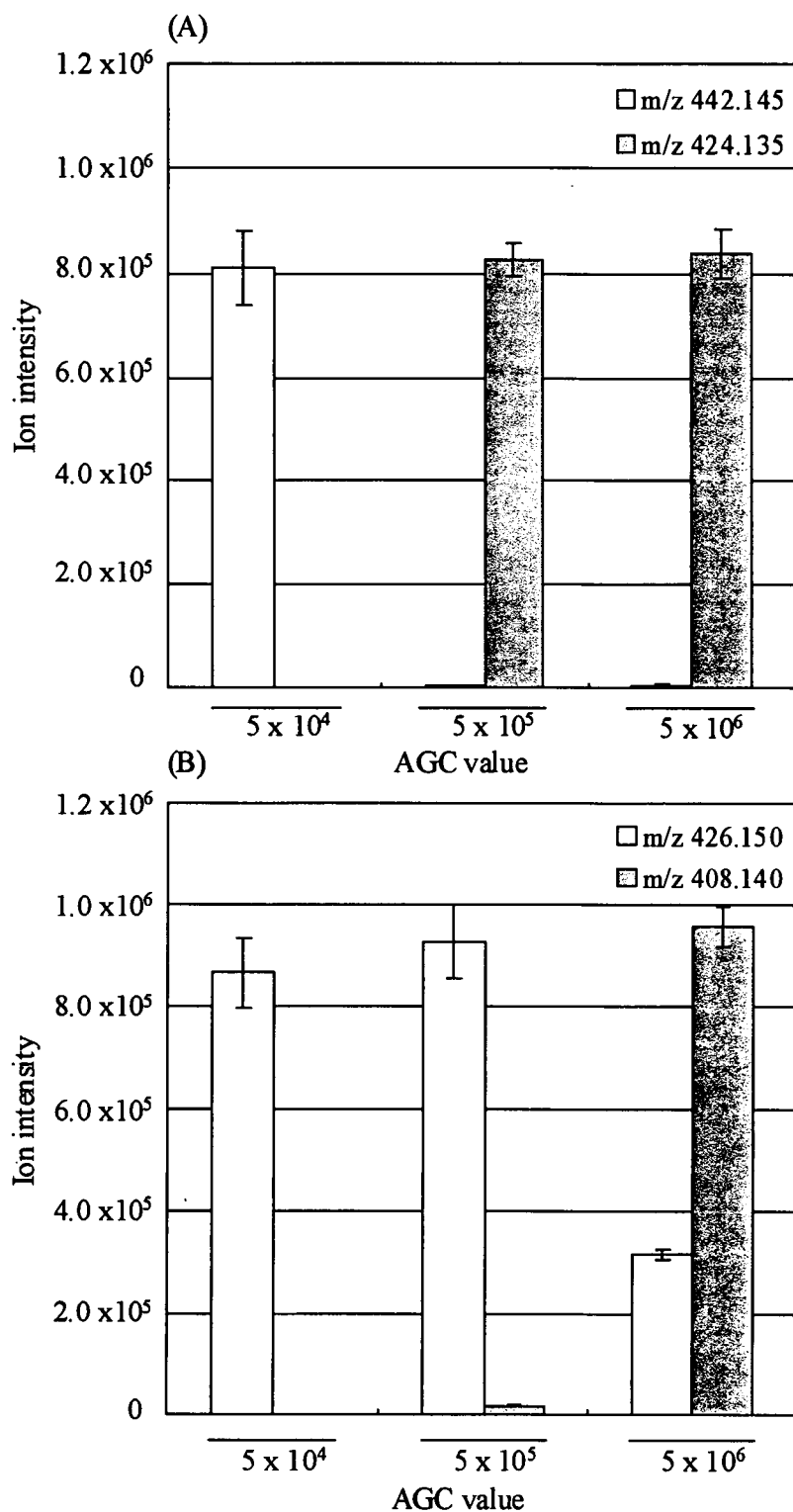


Fig. 10. 分子イオン及び脱水イオンのイオン強度に対する最大イオン取り込み量 (AGC 値) の影響. 数値 (イオン強度) は各測定条件における3回分析のイオン強度平均値 \pm S.D. として表す. (A) [DMB-NeuGc + H]⁺ (m/z 442.145) 及び [DMB-NeuGc - H₂O + H]⁺ (m/z 424.135). (B) [DMB-NeuAc + H]⁺ (m/z 426.150) 及び [DMB - NeuAc-H₂O + H]⁺ (m/z 408.140)

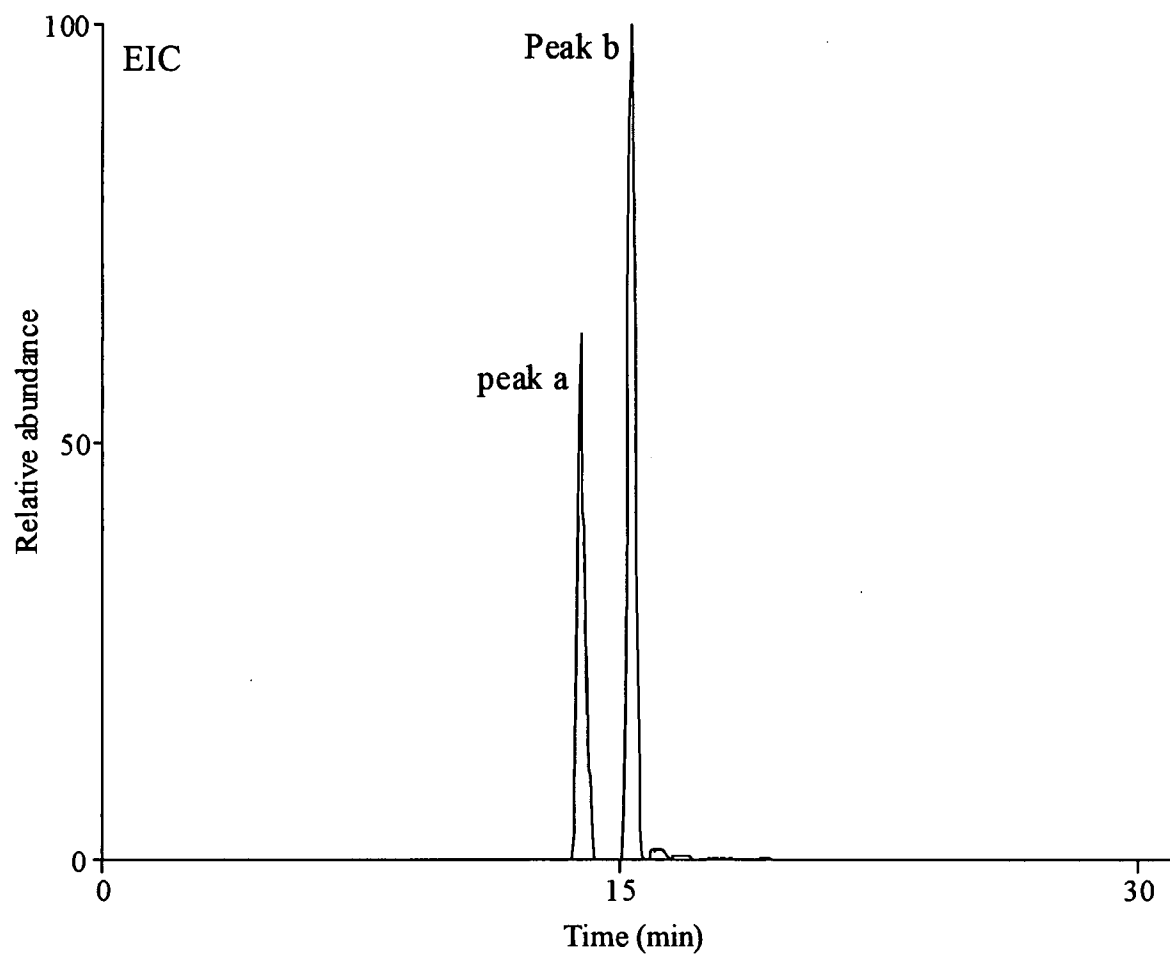


Fig. 11 DMB-NeuGc 及び DMB-NeuAc の SIM (m/z 400-450, ポジティブイオンモード) により得られた m/z 426.13-426.17 及び m/z 442.12-442.16 のマスクロマトグラム.

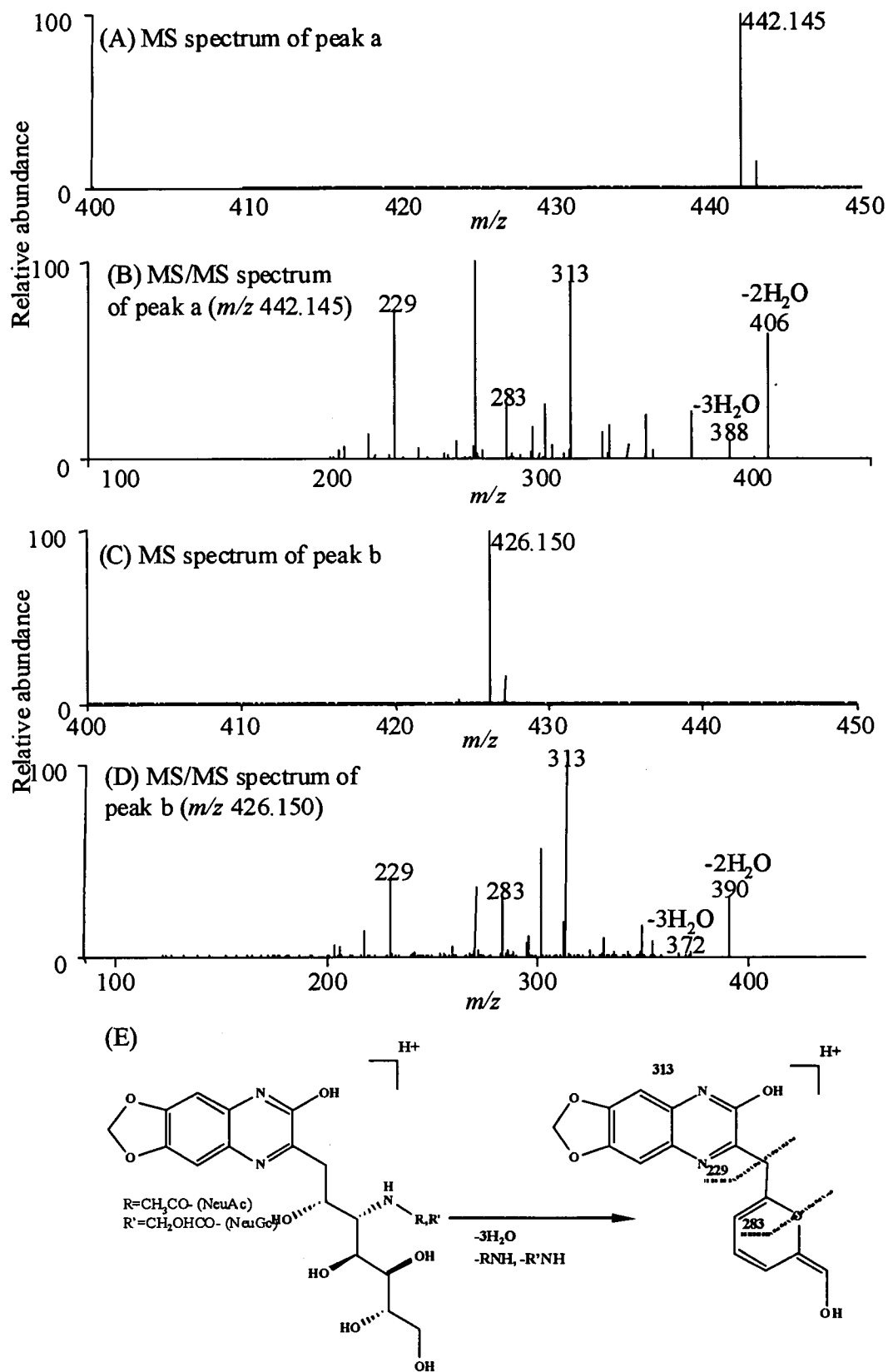


Fig. 12 (A) peak a のマススペクトル, (B) peak a で検出された $[M + H]^+$ (m/z 442.145) のMS/MS スペクトル, (C) peak b のマススペクトル, (D) peak b で検出された $[M + H]^+$ (m/z 426.150) のMS/MS スペクトル, (E) DMB-NeuGc 及び DMB-NeuAc のフラグメンテーション.

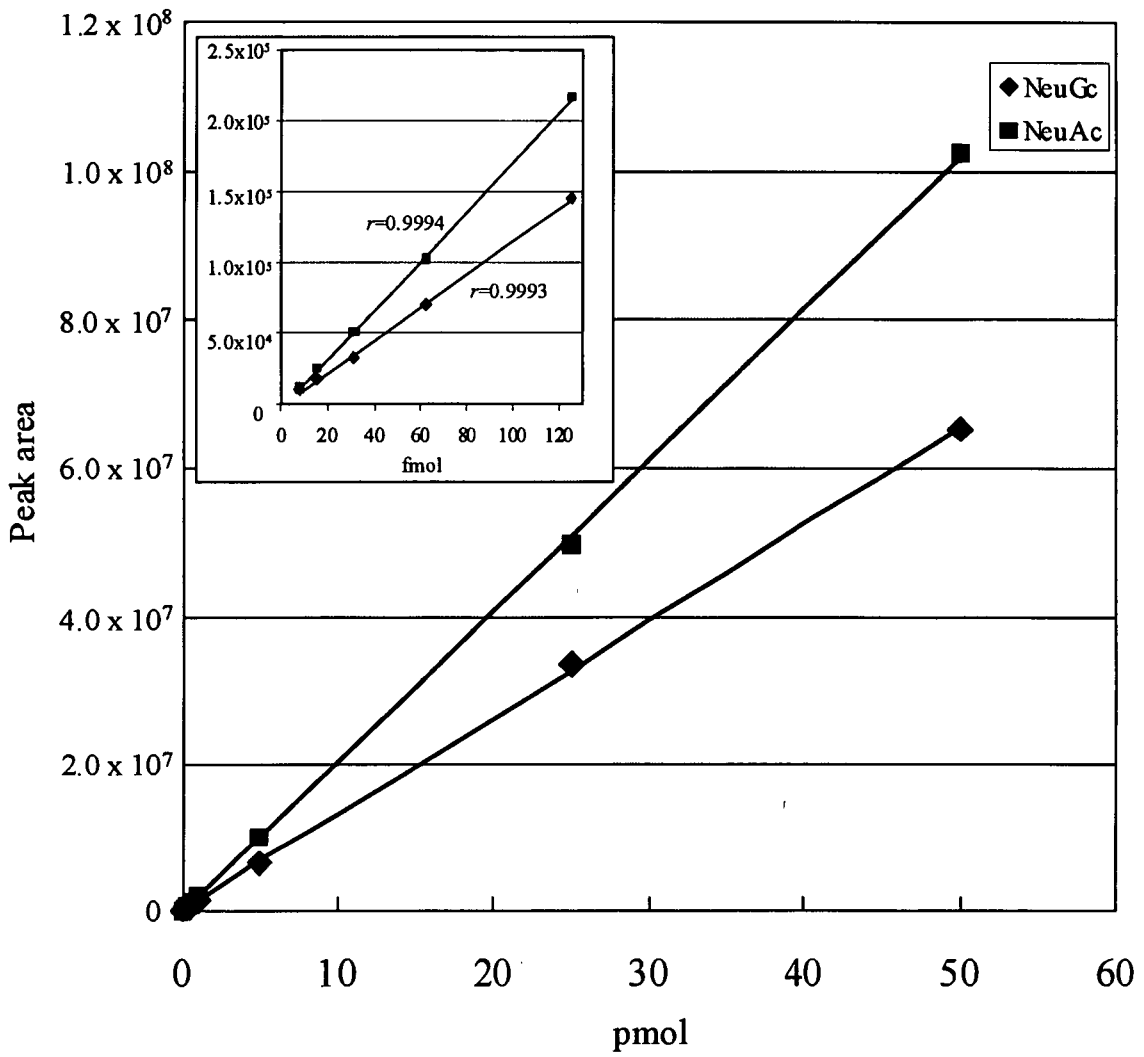


Fig. 13 DMB-NeuGc ($r=0.9998$) 及び DMB-NeuAc ($r=0.9995$) の回帰直線.

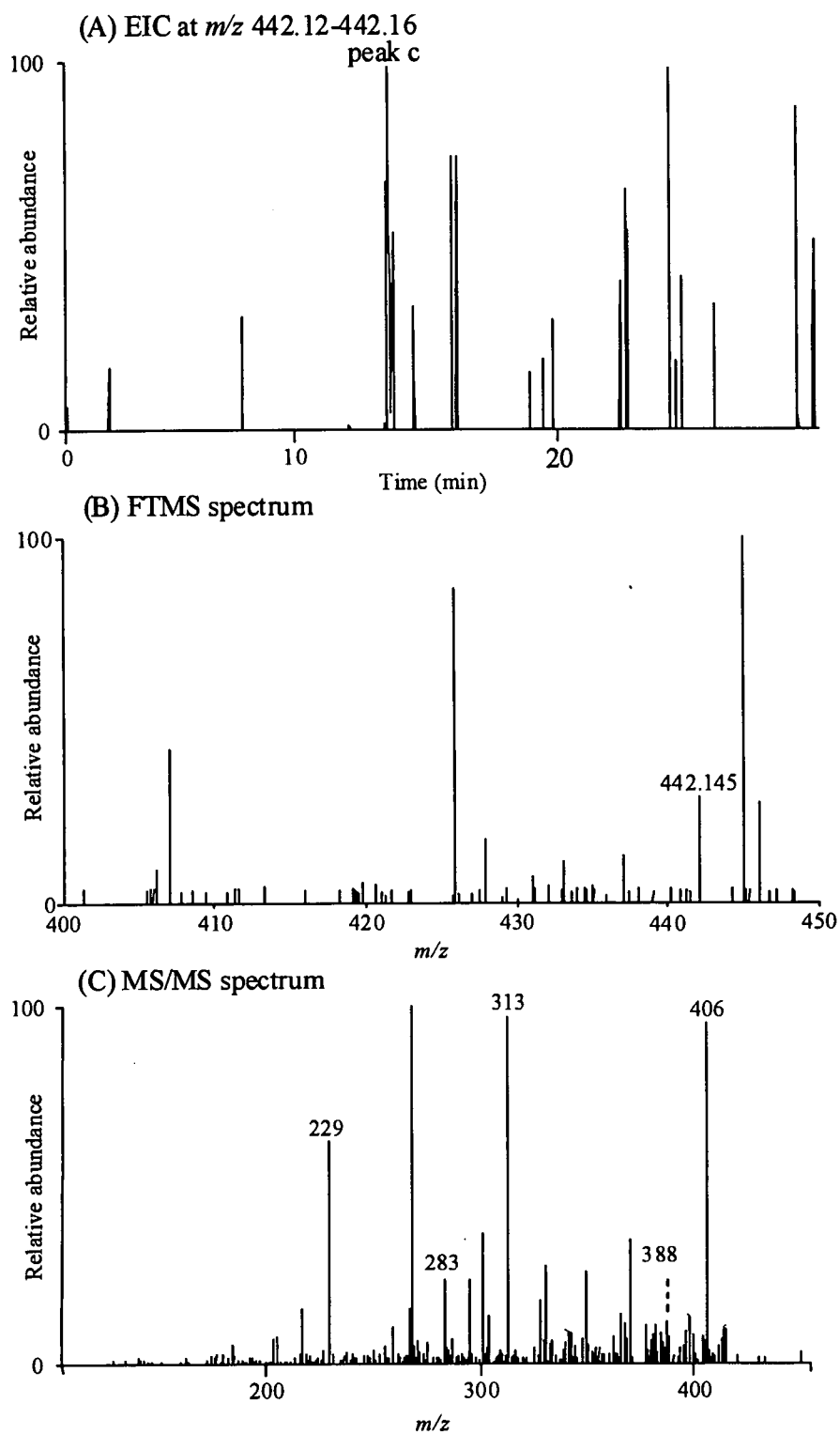


Fig. 14 10% FCS 添加培地で培養したHL-60 細胞 (2.5×10^3) 膜画分由来DMB-NeuGcの検出. (A) SIM によって得られたEIC (m/z 442.12-442.16). (B) peak c のマススペクトル, (C) peak c で検出された $[M+H]^+$ (m/z 442.145) のMS/MS スペクトル.